

## 第55回 日本リハビリテーション医学会学術集会印象記

第55回日本リハビリテーション医学会学術集会が、2018年6月28日(木)～7月1日(日)に福岡国際会議場、福岡サンパレスにて開催されました。これまで3日間開催であった春季学術大会が今回より4日間での開催となりより活気のある会となりました。

私は6月28日から30日の3日間参加させていただきました。1日目は、横浜市立大学附属病院生理学教授の高橋琢哉先生の「分子細胞生物学に基づいたリハビリテーション医学」の講演を拝聴させていただきました。てんかんや認知症、脳卒中などを罹患した患者のリハビリテーションに対して、脳神経生理学的な研究の発展を学ぶことができました。非常に興味深い分野であり、新たなリハビリテーション治療の可能性を感じることができました。

2日目は、「痙縮のボツリヌス治療における投与筋の同定及び確定」のハンズオンセミナーに参加させていただきました。エコーを使用した筋の同定の方法を学ぶことができ、臨床治療に実践できる手技を学ぶことができました。

3日目は企業展示ブースにて、リハビリテーションに関わる様々な装置を体験することができました。電気刺激やロボットアシストによるリハビリ装置や片麻痺の体験など、リハビリテーションの向上につながる技術力の進歩を体験しながら学ぶことができました。



今回、私は初めて学会に参加させていただきました。そして、この学会を通して、リハビリテーション医学の面白さを改めて感じることができました。立派なリハビリテーション科医になれるように精進していきたく思います。



また、1,2日目の夜には多くの先輩方とともに食事をさせていただき、横浜市大リハビリ科の歩みやこれからのリハビリ医としての未来、そして他愛もない日常の話など、たくさんのお話を伺うことができ、とても充実した時間を過ごすことができました。